

3-1. 鎌倉市で想定される風水害

大雨について

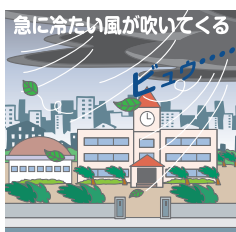
積乱雲の発達

「大気の状態が不安定」な時（上空に冷たい空気、地上に温かい空気の層がある時）に発生します。

積乱雲が近づくサイン

真っ黒い雲が近づいてくる

雷の音が聞こえてくる

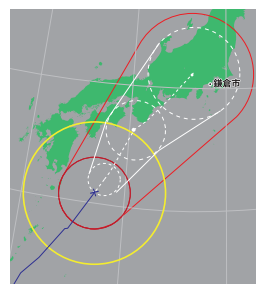


積乱雲は、激しい雨と雷をもたらします。

台風の接近

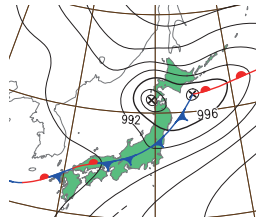
台風は巨大な空気の渦巻きになっており、反時計回りに強い風が吹き込んでいます。

また、台風は積乱雲が集まったもので、雨を広い範囲に長時間にわたって降らせます。



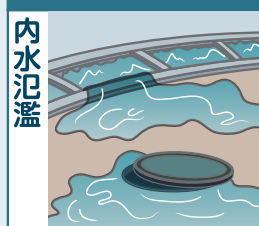
前線の停滞

日本付近では6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞し長雨をもたらします。



大雨・台風によって発生する災害について

水害

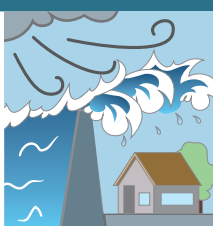


内水氾濫

外水氾濫（洪水）



高潮



土砂災害



土石流



想定される被害について

床下浸水・床上浸水



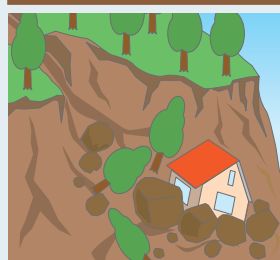
流れ込んでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積し日常生活に大きな影響を受けます。

家屋の流失



河川沿いでは、家屋が流失し、命の危険性もあります。

がけ崩れ



台風や大雨などでがけ崩れが発生する危険性があります。

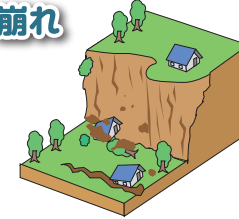
土砂災害の種類

土石流



大雨などをきっかけに谷底にたまった土砂や山腹から崩れ出した土砂が水と混じり合って一体となり、谷を一気に流れ下りる現象です。

がけ崩れ



大雨などにより地面にしみ込んだ雨水が土の抵抗力を弱め、急な斜面の土砂が崩れ落ちる現象です。

地すべり



雨や地下水などをきっかけに山すそや丘陵地などの斜面で、地中のすべりやすい地層を境に地面がゆっくり動き出す現象です。

土砂災害の前兆現象

右図のような前兆現象に気付いたら、すぐに安全な場所に避難し、市や警察、消防などに通報しましょう。

土砂災害の発生のおそれを知らせる「土砂災害警戒情報※」が発表されていなくても、「無駄足でも構わない」くらいの気持ちで、すぐに避難しましょう。

※土砂災害警戒情報…大雨による土砂災害発生の危険性が高まったとき、気象庁と神奈川県から共同で発表されます。この情報が発表されたときは土砂災害が非常に起こりやすい状況ですので警戒を強めてください。

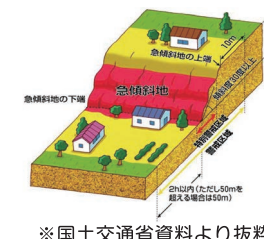
前兆現象に気づいたら、周囲の人にも伝え、すぐに避難をすることが大切です。



土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。



※国土交通省資料より抜粋

土砂災害特別警戒区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

高潮と台風

「台風」は高潮を引き起こす要因である「低気圧」と「強風」を併せ持っています。台風の接近が予想される場合、高潮発生の可能性が高くなります。

台風と進路との関係

台風は進行方向に対して右側の風が強く、吹き寄せ効果による高潮が発生しやすくなります。

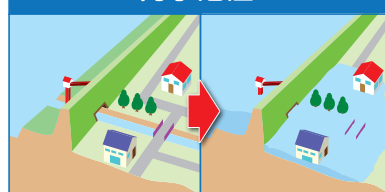


台風の強さ(最大風速)

強い台風	非常に強い台風	猛烈な台風
33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満	54m/s(105ノット)以上
立っていられなくなり、看板などが飛ぶ	樹木が折れ、トラック等が横転する	樹木や電柱が倒れ、住家倒壊の危険性がある

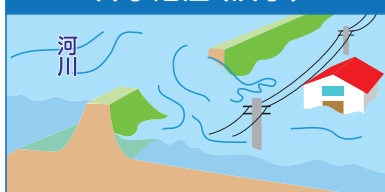
コラム 内水氾濫と外水氾濫

内水氾濫



内水氾濫は、短時間に大量の雨が降った際に、下水道・水路等で雨水を排水できない場合や、下流にある河川の水位が上昇することで、下水道・水路等から河川に雨水を排水できない場合に発生するものです。

外水氾濫（洪水）



大雨によって河川を流れる水が大幅に増え、堤防から水があふれたり、堤防が決壊することにより水が流れ出す現象を「外水氾濫」と言います。